

南原町会防犯パトロール隊(埼玉県)



戸田中学校・南原町会合同防犯パトロール

中学生との合同パトロール(ジョイント・パトロール)

1 団体の概要

(1) パトロール隊結成の経緯

- ・ 結成当時、戸田市の犯罪発生率は県下トップクラスであり、町会内でも空き巣、ひったくりなどが多発したほか、子どもに対する声かけ事案等が発生し、住民に危機感が生じた。
- ・ 平成 15 年 4 月、蕨警察署管内で最初のパトロール隊として発足し、当初、12 名でパトロールを開始。
- ・ 活動への理解と参加者を増やすため、平成 17 年より町会独自の広報誌を発行し、パトロール隊の活動を紹介するとともに、参加者を募集。
- ・ 平成 17 年度に、警察庁から「地域安全安心ステーション」推進事業実施地区(団体)として選定され、現在に至る。

(2) 活動目的

- 防犯に対する意識の向上
- 犯罪抑止の行動

(3) 活動内容

- ・ 殆ど毎日パトロールを実施
- ・ 童の安全対策を目的とした下校時間帯に合わせたパトロールの実施
- ・ 下校時の見守り活動の実施

- ・ 地域における侵入犯罪、街頭犯罪等の発生抑止を目的とし、多発時間帯を考慮した防犯パトロールの実施
- ・ 防犯マップ（120cm×180cmの大型）の作成
- ・ 年刊広報冊子の発行（全世帯に配布）

(4) 構成員

- ・ 45名（男性14名、女性31名）
- ・ 年齢 30歳～79歳（平均年齢 59.5歳）

(5) 防犯パトロールの編成及び活動日数

- ・ 1グループ5～10名で構成し、全7グループを編成
- ・ 1か月23日間の活動
- ・ 15時～2グループ、17時～3グループ、19時～1グループ、19時半～1グループ

2 中学生との合同パトロール実施

平成18年7月から戸田市立戸田中学校の生徒とともに、夏休み期間を利用し、地域に対するボランティア活動の一環として、「ジョイント・パトロール」と称した戸田中学校・南原町会合同防犯パトロールを開始している。

現在は、春休み及び冬休みの期間中、同パトロールを実施。（平成20年7月22日より第7回目を実施）

3 犯罪発生件数の推移

(1) 埼玉県内の犯罪発生件数の推移

- ・ 埼玉県内では平成16年をピークに減少している。

(2) 戸田市内の犯罪発生件数の推移

- ・ 戸田市内においては平成15年をピークに減少している。
- ・ 侵入盗、ひったくり、自動販売機ねらい等は大幅に減少している。
- ・ 自転車盗については駅を中心に発生件数が多くなっている。

(3) 町会内の犯罪発生件数の推移

- ・ 町会内の犯罪発生件数は、県内、市内の発生傾向と比較すると、より著しい減少傾向が表れている。
- ・ 平成17年には空き巣被害が0件に減少した。

平成19年12月に全国782市を対象として実施された新聞社の調査によると戸田市は「環境・経済・暮らし」のバランスのとれた都市＝「サステナブル都市」とし、全国第3位にランキングされ、更に埼玉県内では「住みやすさ」第1位の都市と称されている。

4 防犯パトロールの基本方針

- ・ 我が街の安全は、“我々が守る”という一念で
- ・ 皆に親しまれるパトロールを心がける
- ・ パトロール中に自分たちが事故に遭わぬように
- ・ 何かあったらすぐ連絡を
- ・ 絶対に無理をしない

5 今後の課題（パトロール隊の継続に必要なもの）

若年層の加入 リーダーの育成 人間関係の構築

南原町会防犯パトロール隊（埼玉県）

阿部：皆さん、こんにちは。

わたしは埼玉県戸田市から参りました南原町会の会長で、また南原町会防犯パトロール隊長の阿部健壽朗と申します。

戸田市概要

埼玉県の戸田市といえば、有名な戸田競艇と、東京オリンピックでボート競技が行われたボートコースがあります。我が南原町会はそのボートコースに隣接している埼玉県の最南部で、ほとんど東京に接している地域です。人口は戸田市が約12万人、5万5,000所帯で、わたしたちの南原町会は、人口は2,400人、約902所帯という小さな町会です。町会の人口の6割はマンション、そして4割が戸建てです。戸田市には46町会ありますがけれども、南原町会はその平均よりもやや小さい町会です。戸田市は、サステナブル都市全国第3位、そして住みやすさは、埼玉県第1位という、素晴らしい地域です。サステナブル都市とは、環境、経済、財政、暮らしのバランスのとれた、それが継続可能な都市ということだそうです。全国第3位とは、非常に名誉なことでもあります。

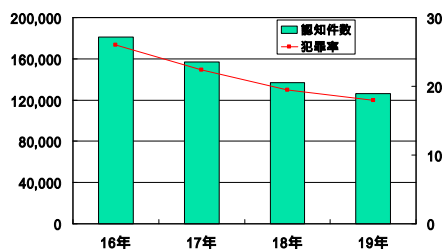
しかし、その反面、戸田市の犯罪発生率は埼玉県でナンバー1という状態が約10年近くも続いておりました。埼玉県では平成16年をピークに減少しておりますけれども、戸田市では平成15年をピークに、より一層の減少を続けております。空き巣や引ったくり、自販機狙いが非常に多い中で、大幅に犯罪発生率は減少しているものの、自転車盗だけが駅を中心に増加をしております。それに比べて南原町会は、埼玉県や戸田市よりもさらに著しい減少の結果を示しております。

平成17年の犯罪発生率を基準に100とした場合に、平成19年には戸田市は64%まで大



埼玉県内の犯罪発生件数の推移

■ 埼玉県内では平成16年をピークに減少傾向



幅に減少いたしました。南原町会の場合には、同じく19年には半分以下の45%まで減少いたしました。特に平成17年には、今まで町会内で30件近くもあった空き巣が0件になったのです。これはわたしたちでさえもほんとにびっくりいたしました。

このようにはっきりと数字の上でもわかるようになりますとメンバーの励みにもなり、一人一人にとってやる気が出てきて、「よし、頑張ろう」というようないい循環になってきているように思います。

防犯パトロール隊結成

平成 15 年 3 月に、蕨警察署に防犯講話を依頼した際、このワースト 1 位の汚名を返すべく、協力してほしいという話がありました。それならすぐに始めようということで、翌 4 月から防犯パトロールを開始したわけです。わたしたちの町会は、空き巣、引ったくり、車上荒らしというのが非常に多いという事情がありましたので、比較的スムーズにスタートしたわけです。

でも、蕨警察署で最初の防犯パトロール隊の結成でございましたので、そのノウハウがなくて、いろいろとわたしたちもわからないものですから、蕨警察署にいろいろ相談をしながら試行錯誤の連続でした。当初、役員が中心になって一般の人も何人が集まっていたいてパトロールを始めようということになったのですけれども、どこの町会もやっていない。そしてまた誰もやっていないということもあって、最初からスタート前に 3 人もやめることになってしまいました。そして、仕方なく、結局は役員だけの 12 人でスタートをいたしました。

細々と 2 年を経過して、町会長の改選という時期になりましたので、どうせやるなら週 2 回なんて言わないで、毎日できるぐらいのパトロールをやりたいなというふうに思うようになりました。それから、あちこちに会合の都度、誘いかけたり、あるいはまた回覧も出しましたけれども、思うようになかなか集まりません。わたしは零細企業の工場を経営しておりましたので、その工場のことや、町会の運営などもあって、会合は何とか都合するものの、それ意外の時間がなかなか取れないのです。回覧を出しておきながら「人が集まらないので今までどおりやります」なんて、とてもみっともなく言えません。つくづくふがない自分に落ち込むばかりで、どうしようもないこの苦しさを、いかんともしようがありませんでした。

そうしたある日、家内が「わたしもパトロールやってみようかな」とポツンと言言うんですね。わたしは「しめた！」と思ったんですけども、それはおくびにも出さないで、黙っていました。そして、「やるならご婦人に声をかけて一緒にやるようにしたら」とですね、喜びの気持ちをしっかり抑えながら、至って冷静に頼み込みました。家内には会社の雑用一切と、町会長としてのわたしの仕事の応援も時々頼み、町会の夫人部長としての仕事もやってもらい、わたしとしてはもうこれ以上は言えない非常に弱い立場だったのです。

このときぐらいうれしかったことはありません。

不思議にそれからはほかの人たちの協力もあり、順調に参加希望者が集まって、平成 17 年 4 月には 6 グループ、31 名、1 カ月 22 日体制の再スタートを切りました。しかし、この体制を決めるのも結構大変でした。自分の都合のいい日、曜日、時間、頻度等の第 1 希望、第 2 希望等々を聞いた上で、それを調整、集約したり、なおかつ、人間関係も考慮のうえにグループ長を決めてスタートする。いろいろと気を使ってスタートをいたしました。その後、平成 17 年 6 月には、警察庁の地域安全・安心ステーションのモデル事業実施団体に選定され、現在まで 4 年連続で選定をされて、誇りを持って続けております。

防犯パトロール隊の活動

わたしたちの活動目的についてであります、1 番目は、防犯意識の向上ということです。地元で何が起きて、そして、どのような状態なのかをよく知り、それに対してどうすればよいのかを知ることが大事であると、わたしたちは思いました。2 番目には、犯罪抑止の行動であります。1 つは防犯パトロールで、1 つは見守り隊としての行動です。防犯パトロールの合い言葉。わたしたちは、「見せて、聴かせて、挨拶して」というふうに言っております。まず、防犯パトロールの場合には、派手な服装で、まず人の目に見せる。わたしたちの黄色いジャンパーで、そしてまた、黄色い T シャツ等を着用して、夜は反射剤の付いたベストを使ってパトロールをしております。そして次に、青パトのパトロール音。それをわたしたちの場合にはピンポンパーンと音がするんですけども、それを拡声器に入れまして、その音を出しながらパトロールをしております。それを人の耳に聞かせるわけです。この音が非常に好評といいますが、大きな影響を内外に与えております。3 番目は、通行人とのあいさつです。最初はげげんそうな顔をして「何だろうな」って思っていたんだろうと思いますけれども、見過ごしてそのまま通り過ぎた人たちも、だんだんあいさつを返すようになり、そしてまた、子どもたちもあいさつをするようになりました。



もう一つは、見守り隊としての役割です。小学生の下校時には、パトロールの 2 グループが火曜日、金曜日に通学路を中心にパトロールし、ほかの家族は通学路に出て見守ります。登校時はパトロール隊としては特に対応はしていませんけれども、有志によるパトロールや交通整理、そして自宅付近や通学路で見守りをしております。

次に、活動の内容ですが、現在のパトロールのメンバーが7グループありまして45名おります。1グループは5名ないし10名の編成で、1カ月間23日間の巡回をし、大体、行程としては約1時間で行っております。時間帯も、子どもの安全対策に午後3時から2グループ、主として空き巣、引ったくり対策に



午後5時から3グループ、一般防犯対策として午後7時あるいは7時半から各1グループが活動しています。曜日は毎曜日で、月4回が5グループ、月1回が2グループです。メンバー45名のうち、男性が14名、女性が31名。年齢は30歳から79歳で、平均年齢は59.5

歳とちょっと高いです。また、犯罪発生が多いところは、汚いところや暗いところだと言われます。その一例としてビラやポスターの張り紙や放置自転車、あるいは不法投棄のごみですね。それから、そういったごみの散乱、落書き、街灯の不足等が挙げられますけど、わたしたちは特に電柱に張られた広告ビラやピンクビラ、ポスター等をきれいにはがして、自慢ではありませんけれども、町会内でただの1枚も張り紙がありません。

放置自転車や不法投棄のごみ等も必ずチェックしてパトロール報告書に記入をし、それをもとに市役所等に通報して処理してもらっております。それでパトロールをやりやすくしようということで、防犯マップを作りましたけれども、皆さんにわかりやすく説明したりするのに、どうしてもA3の大きさでは不都合ということで、特別大きく、移動用の黒板よりも大きい1,200×1,800という大きさのものを製作し、現在まで非常に便利に使っております。また、年1回でありますけれども、パトロール隊としての広報冊子を発行し、全所帯に配布をしております。4ページ立ての少きれいなもの、非常に喜ばれております。

次に、わたしたちの一番のメインだというふうに言ってもいいと思いますが、中学生との合同パトロールをしております。平成18年7月から、戸田市立戸田中学校の生徒と一緒に夏休み期間を利用して、地域に対するボランティア活動の一環として、ジョイント・パトロールと称した戸田中学校・南原町会合同防犯パトロールと、ちょっと名前は長いんですが、このパトロールを平成18年7月24日に出発式を行った上で開始をいたしました。それまで中学校のほうでは空き缶やごみ拾い等のクリーン活動をしておりましたけれども、パトロールは初めてなので、当初は希望者があるのかどうかさえも非常に不安でありました。しかし、熱心な校長先生の協力もあって、部活、受験、塾通いの忙しい日程や時間の

間を縫って、述べ70数名の中学生が手を挙げてくれたのには正直驚きました。

ある時、空き巣の現場をパトロールのときに見せたことがありました。ベランダのガラスを破り、まさに入ろうとしていた現場で、さすがにそのときは皆ショックを受けたようです。パトロールから帰宅後、一人の中学生が「毎晩、



毎晩、父から、戸締りをしたか、鍵を掛けたかと言われて本当にへきえきしていたけれども、こんな静かな身近なところでこういうことが起こっているなんて夢にも思わなかった。本当にショックです」と語っていたのが印象的でした。

以来、春休み、冬休みも毎回、実施しており、今年の平成20年7月からの夏休みも、通算7回目のジョイント・パトロールを実施いたしました。中学生と一緒に現場に行き、その場その場で何が危険なのか、どういうところが危ないのか。また、それはなぜか。それに対処、対応するにはどうしたらいいかということを手際よく教える。そしてまた、一緒に考えることによって「非常によかった」という反応を示してくれております。ジョイント・パトロールは平成18年7月から現在まで合計7回、46日間、延べ239名の中学生が参加をいたしました。

防犯パトロールの基本方針

次に、防犯パトロールとしての基本方針です。

(1) わが街の安全は“我々が守る”の一念

誰も何もしなければ犯罪は増加の一途をたどり、不安な暗い町でしかなくなるでしょう。少しでも明るい安全な住みよい町を目指すには、誰かが立ち上がらなければなりません。自衛の手段を講じて初めて犯罪を減らすことができることにつながると思います。わたしたちは地域を守るという大きな目標に少しでも貢献できる誇りを胸に、「我が街の安全は我々が守る」という強い強い一念でパトロールに臨んでおります。

(2) みんなに親しまれるパトロール

同じパトロールをしても、住民や通行人から嫌われたり後ろ指を指されるようではいけないというふうに思います。皆さんから「ほんとにご苦労さま」「ありがとう」と言われ感謝されるパトロールでありたい。それには、わたしたちが、パトロールとはいえ真心を込めて、「地域のために、みんなのために」という心こそ大切であると思っています。機械的にパトロールをやったり惰性でやっている場合と、心を込めてやってい

る場合とでは、見ていて、はっきりとわかるものです。

(3) パトロール中に事故に遭わない

パトロールに一生懸命なあまり、交通に対する注意がおろそかになる。そして交通事故に遭うようなことがあってはいけないと思います。第一、パトロール中に交通事故に遭えば、「どこを見てパトロールしてるんだ」というふうに笑われてしまいます。交通事故ばかりでなく、他の事故や事件にも巻き込まれないようにしたい、また、気をつけたいというふうに思っております。

(4) 何かあったらすぐ連絡を

事件や事故、困った問題に遭遇したときに、自分たちで処理をすることを考えず、すぐにしかるべきところに連絡をするということを原則としております。ごく簡単なことは別として、すぐに、迷わずに、110番でもOKというふうに言われております。そのほうが、つまらないトラブルや事件に巻き込まれないですむということです。当町会で雨の夜のパトロール中に痴呆症の老人を保護した。そういうこともあります。

(5) 絶対に無理しない

少しぐらい具合が悪くてもパトロールぐらいだから大丈夫だろうといういことで無理はしないこと。もしパトロール中に具合が悪くなったら、すぐに中止して帰宅する勇気を持ちたいというふうに思います。また、交差点を渡る場合でも、人数や状況を考えて、無理をせずに次の信号まで待つ余裕も必要です。そして基本的には、パトロールに限らず、できることを、できるときに、できるところで、できる人がやるということが大事であろうと思います。それはいろんな面で言えると思います。

今後の課題

今後の課題として挙げられることが幾つかあります。

(1) 若年層の加入

まず、わたしたちの場合には、若年層の加入ということです。現在は平均年齢が59.5歳で、それが不都合ということでは決してありませんが、やはり若返りを図りながら隊の活性化と継続できる体制をつくっていきたいと思っています。

(2) リーダーの育成

それから、リーダーの育成ということですが、「継続は力なり」と言われますけれども、やはりリーダー次第で一切決まると思います。戸田市では、市長が学長となって防犯ボランティアリーダーカレッジを開催しておりますけれども、非常にわたしたちにとっては、この市の後押しは心強い限りで、ありがたいというふうに思っております。

(3) 人間関係の構築

何といっても人間関係がうまくいかないと言った場合は絶対にしないと思います。わたしたちのパトロール隊は現在は、非常にうれしいことに、うまくいっているというふうに自分は思っています。財務省や国交省や文科省の視察の際にも、メンバーに直接質問されたときに、「わたしたちは楽しみながらやっています」とか、あるいはまた「1週間が待ち遠しい」という返事が返ってきました。終わった後に視察の同行の方からは「本当にそうなんですか」と言われたようなこともありますけれども、これは良好な関係のひとつの表れではないかというふうに思っております。

(4) 関係機関との連携

現在、中学校とジョイント・パトロールをしておりますけれども、これから、市役所、警察署、中学校、町会の4者で連携をとって、これからのパトロールについて、あるいは防犯活動について話し合いをしていきたいと思ひ、準備を今進めております。

最後に、わたしは現在のパトロールのメンバーには心から感謝をし、心から敬意を表したいというふうに思ひます。本当に真面目に真剣に取り組んでいる一人一人を目の当たりにするときに、こんなにすばらしい人たちに恵まれて、わたしは、本当に何て幸せなんだろうかというふうに思ひます。地域のためとはいえ、このすばらしい人たちに、毎日、最敬礼の思いでパトロールに送り出してあります。そして、これを基本として、地域のきずなを深めていきたいというふうに思ひます。そして、一人はみんなのために、さらに、みんなは他のみんなのために、であるとわたしは思ひます。誠心誠意、誠を尽くし、地域に、社会に貢献しようという心こそ大切であろうと思ひます。

司会：ありがとうございました。

実はわたしも今年の4月に、この団体に視察に行かせていただきまして、皆様方と一緒にパトロールをさせていただきました。このときは雨が降っておったんですけども、大変皆さん熱心にパトロールに参加していたというのが非常に印象的でした。それでは、ただいまの発表につきまして何かご質問等ありましたら、挙手をお願いします。

：パトロールに取り組む力の入れようというのは、町会全体でどのくらいになってるんでしょうか。

阿部：ほかの役員の方には、なるべくしわ寄せが行かないような形で現在やっております。また、町会であれ、あるいはまたこの防犯パトロールであれ、やはり若い人たちをこれから取り込んで一緒にできる体制をつくっていかねばと思ひます。